

安全報告を促進する要因とその活用のための教育手法

北村康宏 増田貴之

単独作業が多い鉄道の運転現場において、運転士からの自主的な報告は安全管理における重要な情報源です。しかし単独作業であるために、そのような安全報告は心理的に困難な場合があります。

本研究では安全報告を支援するため、報告を促進する個人要因を明らかにしました。安全報告を実施した運転士を対象にしたヒアリングによって報告を促進する可能性のある複数の個人要因を抽出し、web調査と心理実験によって報告を行う傾向との関連を検討しました。web調査の結果から、他者の立場で物事を考える傾向、自己評価を重視する傾向、職業に自尊心を持つ傾向が高いほど、意識的(自

覚的)な報告を行う傾向を示すことが明らかになりました。心理実験の結果からは、他人に対する感情的な配慮をする傾向が高いほど、無意識的(無自覚的)な報告を行う傾向を示すことが明らかになりました。さらに、これらの結果を基に安全報告を促進させる、教育訓練手法を開発しました。

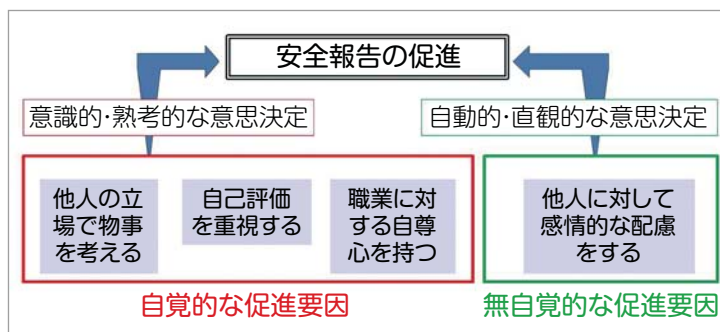


図 自主的な報告を促進する要因